

生き生きと学び続ける児童の育成

～主体的な読みを通して、考えを共有し、思いを表現できる児童の育成～

I はじめに

現在、我が国の市町村立小学校の多くは、かつて経験したことのないたくさんの課題に直面している。つまり、急速な社会変化に対応できる資質・能力の育成、教育的ニーズの多様化、支援が必要な児童や不登校児童の増加、教員不足、働き方改革等である。どれも解決の難しい難題ばかりであるが、このような困難な状況であるからこそ、教職員で話し合い、共通の目標を掲げ、それに向けて協働的に研究・実践を重ねていくことが一層重要になっている。

このような考えから、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、共通実践事項を土台とした授業改善に全職員で取り組むこととした。本論文で、その一端を記すこととする。

II 研究の概要

1 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

現代社会は、グローバル化や情報化、技術革新等が加速度的に進んでおり、さらには、新たなウィルスの感染拡大など、予測不可能な時代を迎えようとしている。このように急激に変化し続ける現代社会では、知識の量だけではなく、答えのない問いに対して、正面から向き合い判断し、一つの課題に対して多くの情報を吟味して、周囲の人たちと協働しながら解決策を探す力が求められている。児童がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまで学校教育が長年蓄積してきた、「生きる力」を生かし、学習の質を深める「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を進めていくことも学校教育には求められている。

(2) これまでの研究の経過から

昨年度は、「主体的に学び続ける児童の育成」を研究主題として、「熊本の学び推進プラン」をもとにした授業づくり・授業改善に取り組んできた。このことを通して、特に国語と算数においては、学習過程の工夫や学習規律の共通理解、共通実践が図られるようになってきた。

(3) 本校の児童や地域の実態から資料1

令和4年度全国学力・学習状況調査では、算数と理科が、全国平均正答率を上回ったものの、国語は、わずかに下回る結果であった。「知識・理解」の定着は、全国平均を上回っており、主に「思考・判断・表現」の観点での課題が見られた。

また、県学調・市学調では、国語で4・5年生が全国平均を上回り、2・3・6年生が、全国平均を下回る結果であった。問題の内容では、「物語の内容を読み取る」「話合いの内容を聞き取る」「文章を書く」ことに課題が見られた。観点別では、2・3年で、「主体的に学習に取り組む態度」の項目が、領域別では、2・3・4・6年で、「読むこと」と、2・3・5・6年で、「情報の扱いに関する事項」に課題が見られた。

算数では、6年生がわずかに全国平均を上回り、3・4・5年生が全国平均を下回る結果であった。問題内容では、「小数や分数を含む計算問題」に課題が見られた。観点別では、「思考・判断・表現」の項目が、領域別では、3・4・5年の「数と計算」、4・5年の「データの活用」に課題が見られた。

国語・算数に共通して考えられる課題は、与えられた内容から目的に応じて、必要な情報を選択し、正確に判断・処理し、明確に表現する力が不足しているということである。また、児童の質問紙や教職員の実態観察の結果から、学習習慣、学習意欲、発信力（自分の意見を発したり先生の質問に答えたりする力）の低下が課題として明らかになった。この結果に鑑み、今年度は、これまでの取組を土台としながら、国語科に絞り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善や指導の工夫を進めていくことにした。

2 研究主題および副主題に対する基本的な考え資料2

(1) 生き生きと学び続ける児童について

「生き生きと学び続ける姿」とは、課題をつかむ段階では、「なぜだろう！」「もっと知りたい！」と意欲をもって学ぶ姿。また、課題に挑戦する段階では、「やってみよう！」「解いてみたい！」と意欲をもって学ぶ姿。深める段階では、「伝えたい！」「聞きたい！」と意欲をもって学ぶ姿。そして、学習が終わってからも、「もっとやってみよう！」と意欲を高め、学び続ける姿ととらえている。このような姿を日々の授業で繰り返していくことで、学ぶ意欲を高め、深い学びにつなげていきたい。

(2) 主体的な読みを通して思いを表現できる児童について

「主体的な読み」とは、書かれている内容を受動的に読み取るだけでなく、目的に応じて読んだり、問題意識をもって読んだり、既習事項と関連付けて読んだりすること。つまり、児童が自発的に文章に向かい、豊かに想像したり、新たな発見をしたりして自分の読みを深めていくことととら

えている。そして、そのような深い読みを通して、友達と考えを共有し理解するとともに、自分の思いに根拠をもって伝える姿をとらえている。

3 研究の仮説と視点

- 仮説 1 : 国語科の授業において、主体的な読みを通して、考えを共有し、自分の思いを表現できる取組を継続すれば、意欲をもって生き生きと学び続ける児童を育てることができるであろう。(授業改善)
- 仮説 2 : 基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習習慣を形成する取組を実施・継続すれば、生き生きと学び続ける児童を育てることができるであろう。(学び合いの土台づくり)

(1) 仮説 1 授業改善

仮説 1 : 授業改善の視点

- ① 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくる指導過程の工夫
- ② 主体的な読みにつなげるための教師のしかけ
- ③ 児童の考えを引き出す話し合い活動の工夫

授業改善のために、ここでは以下のことを実践していく。

- 単元全体の振り返りシートを作成する(単元ゴールの設定、振り返り)
- 本時の流れを共通実践する
- 効果的な話し合い活動、教師の発問等により児童の考えを引き出す

(2) 仮説 2 学び合いの土台づくり

仮説 2 : 学び合いの土台づくりの視点

- ① 基礎的・基本的な学力向上の取組をする
- ② 学習規律の徹底に向けた取組をする
- ③ 家庭学習充実のための取組をする

学び合いの土台づくりのために以下の基礎的・基本的な学力向上の取組と学習環境づくりの取組を実践していく。

- 基礎的・基本的な学力向上の取組
- 家庭学習充実のための取組
- 学習環境づくりの取組

4 研究の構想

(1) 研究の方法

授業改善を図りながら常時研究を行う。研究への意識を保つために、授業研究会の実施、部会・チームでの話し合い等を行っていく。

(2) 研究の組織 資料 3

「授業づくり」「基礎学力」「学習環境」の三つを柱として、各チームのチームを中心に全職員で研究を進めていく。

III 研究の実際

1 仮説 1 授業改善について

授業の取組は、以下の資料に示す。資料 4・5・6

(1) 児童に見通しを持たせ、主体的な学びをつくる指導過程の工夫

国語科の学習においては、1つの学習单元である「読みの力」を育成するために、数時間の教材文を通した、基礎的な知識技能を身に付けさせる習熟を必要とする。その学習の仕上げとして、児童の主体的な学びにつながる「学習单元のゴール」が存在する。この「学習单元のゴール」は、教師が決めるのではなく、児童が学習を通して得た基礎的な知識技能を駆使し、児童自らが日常生活と重ねて考えられるようなゴールでなくてはならない。そこで、「学習单元ゴール」の設定は、第1次の段階で、教師の指導の下、学習時の行事やその他の教科との関連及び児童の実態に応じて、児童集団が決定するようにした。その際、必要に応じて、その「单元のゴール」がどのようなものであるかイメージをもたせるために、モデルとなるものを提示するように改善した。

また、児童が、学習单元全体の見通しがもてるように、毎時間の活動内容を全て書いた「振り返りシート」を作成した。資料 7・8・9このシートの中には、前述した「学習单元のゴール」も書き入れられるようにしておき、児童が常にゴールを意識できるように工夫をした。「振り返りシート」は、学習内容全体の流れを把握するだけではなく、その学習内容に対する「振り返り」を記述できるようにした。このシート1枚で学習全体の自分の伸びや課題が分かるように作成したのである。振り返りをする時間の設定は、毎時間ではなく、学習のまとまりとなる重要なタイミングで、自分の学びの姿を振り返られるようにした。

振り返る際に、「何を振り返るのか分からない」と児童が困らないように、具体的な振り返りの視点を、下学年用資料 10と上学年用資料 11の2種類作成して、思考の支援に使えるように改善した。

(2) 主体的な読みにつなげるための教師のしかけ

主体的な読みにつなげるためのしかけとして、「か・が・みっ・こ・ふ」資料 12の学習過程の徹底と「途中振り返り」を行った。本校では、これまで「か・が・みっ・こ」の学習過程での学習を積み上げてきている。国語科においても、この学習過程を徹底し、毎時間の流れを明確にすることで、児童が次に何をすることが分かり主体的に授業に臨むことができると考えた。

さらに、今年度は、振り返りの活動を意識させるために、「か・が・みっ・

こ」の学習過程に「ふ」の過程を加えることを共通理解し、国語科の授業を中心に実践をした。その後、研修を進めていく中で、学びを整理するための「途中振り返り」にも取り組むことにした。資料13「途中振り返り」とは、学習の中で学びをまとめ、思考を整理する時間を設定することである。学習の途中で、板書や児童のノートから学習を整理し、確認することで、児童がここまでの思考を振り返り、次の活動にスムーズに移ることができると考えた。

(3) 児童の考えを引き出す話し合い活動の工夫

児童の困り感を解消したり、児童の思考をつないだりするために問い返しを行うことで、課題解決に向けてのより明確な根拠がでてくることが考えられる。そこで、教師主導の問い返しを必ず授業で行った。

次に、学習形態を工夫した。学習形態とは、集団やグループ、または個から人数を変化させることや教室環境を変化させること、様々な形態を工夫することととらえた。2人組で活動するときは、向き合ったり、横に並んだり、椅子だけを動かすなど、多様な工夫があり、学級の実態に応じて変換させた。

最後に、話し合い活動における型の利用である。資料14話し合いの型を使って、全員が話し合いに参加できるようにした。話し合い活動は、児童が自分と異なる様々な意見や考え方と出会い、比較・検討することを通して、それぞれが考え方を広めたり深めたりすることができる。しかし、話し合う時に、自分の意見を主張することのみに集中したり、友達の意見を聞くことだけに集中したりするなど、役割が偏ってしまう事が多々ある。そこで、話し合いに参加する前には必ず、全員が自分の考えをもつことを意識させた。自分の考えを、教科書やノート、プリントなどの該当箇所に線を引いたり、書き込んだりして、自分の考えをもって話し合いに臨めるようにした。さらに、友達の意見を問い直したり、理由を確認したりしたことで、交流を深めた。また、グループで話し合っただけで考えを一つにしぼるなどの活動も取り入れた。考えを一つにした時には、なぜその考えとなったのかの理由付けをすることも取り入れた。

2 仮説2 学び合いの土台づくりについて

(1) 基礎的・基本的な学力向上の取組

① 漢字・計算大会

学期末の「漢字・計算大会」の実施に向けて、各学年で自作の問題を作成し、課題が多く見られた内容を取り上げることにした。資料15例えば、2年生は、1学期には筆算での計算の習熟を図る必要があり、2学期には九九の習得が不可欠である。このように各学年においてふさわしい内容を吟味して、同じ問題を朝自習や宿題でも取り組ませるなど、繰り返し練習の機会を設け、本番の「漢字・計算大会」に臨ませるようにした。また、

大会期間後の1週間を、フォローアップ期間として設けた。この期間に、満点を取るまで何度でも挑戦させ達成感を味わわせるとともに、基礎・基本の定着をねらい実施した。

② 基礎基本タイム

毎週月曜日の朝活動をタブレット活用の時間と位置づけ、1～3年ではeライブラリアドバンスを、4～6年ではスタディサプリを実施した。**資料16**eライブラリアドバンスでは、ドリル学習を中心にを行い、単元のまとめの時期には一斉確認テストを用いた。スタディサプリでは、授業の進度に応じて問題集や単元テストに取り組んだり、該当する講座を視聴して内容を振り返ったりするなど、児童の実態に合わせた取組を行った。

掲示物充実の取組として、「〇年生の基本」コーナーを設置し、国語科における各学年の実態に合わせた掲示物の掲示を行った。教科書の内容を中心に、その内容を精選し、学年の掲示板に掲示を行った。**資料17**

③ 家庭学習充実のための取組

ア 「家庭学習の手引き」の配付

家庭学習の徹底を図るために全学年において、1学期に「家庭学習の手引き」を配付した。**資料18**また、保護者に対しても家庭学習の徹底を意識付けするために学級通信でお知らせするとともに、授業参観後の学級懇談会においても周知した。

イ 家庭学習アンケートの実施

家庭学習の実態を調査するために、昨年度と同じ内容の「家庭学習のアンケート」を12月に実施し、家庭学習に関する意識が昨年度とどのように変化したかを比較した。

ウ 家庭学習コーナーの掲示

昨年度実施した家庭学習に関するアンケート結果から、家庭学習について担任や専科から出される課題に対しては目的意識をもって取り組んでいるが、それ以外に何をどのようにすればいいかわからなかったり、目的意識を持つことができなかつたりするのではないかと考察した。このことを受けて、2学期から、家庭学習について目的意識をもたせ、家庭学習をどのように進めればよいかのヒントとするために、全校児童がよく通る場所に家庭学習コーナーを設置し、各学年のモデルとなるノートを定期的に貼り替えながら掲示した。**資料19**

(2) 学習環境づくりの取組

① 学習規律の徹底に向けた取組

学習規律を視覚的にとらえ、全校統一した指導を行うために、教室に6つの掲示物を設置した。「か・が・みっ・この学び方」「発表の仕方」「ふりかえりの視点」「声のものさし」「すわり方の約束」「学用品の約束」を常時掲示し、児童も教師も必要なときにいつでも活用できるようにした。**資料20**「発表の仕方」については、基本的なものに絞って掲示し、児童や学

級の実態に合わせて言い方を増やすなど、柔軟な指導ができるようにした。

② 並行読書

児童が、読書をするを通して主体的に学ぼうとする態度を育てることをねらい、学期に2回程度、鏡図書館から借りた本を、各学級15冊ずつ学級文庫として設置した。鏡図書館と連携し、その時期に学習する教科書教材と関連した本を選書した。また、国語科の単元によっては、鏡図書館や学校図書館から関連図書を30冊程度揃え、学習に活用した。資料2

1

③ 言葉の広場の充実

校内に各学年の掲示場所を設定した。各学年の学習や実態、季節にふさわしい「詩」や「俳句」「ことわざ」などを掲示し、奇数月に貼り替えた。また、児童が読んでみたくなるようなイラストや書体、色などを工夫した。

資料2 2

IV 結果と考察

1 仮説1 授業改善について

(1) 児童アンケートの結果から

国語科の授業や家庭学習について、6月、11月に児童への意識調査を行った。資料2 3 質問1の結果から、「不思議に思ったことを調べることを習慣化している児童」の割合が14.2ポイント増加したことが分かる。質問2の結果から、「学習課題の解決を目指して主体的に取り組んでいる児童」の割合が6.1ポイント増加したことが分かる。質問3の結果から、「授業で自分の意見を積極的に発言できていると実感している児童」の割合が4.6ポイント増加したことが分かる。質問4の結果から、「学習内容を見直し、次の学習に取り組んでいる児童」の割合が1.2ポイント増加したことが分かる。この「国語科の授業に関する意識調査」の結果から、すべての項目において伸びが見られ、児童が主体的に授業に参加するようになったといえる。また、「家庭学習の意識調査」においても、全学年において伸びが見られた。家庭学習に取り組む姿から、「やってみよう!」「もっとやってみよう!」と、意欲をもって学ぶ結果につながったのではないかと考えられる。

(2) 「児童に見通しを持たせ、主体的な学びをつくる指導過程の工夫」では

国語科の主要単元で、「振り返りシート」を作成し、学習単元のゴールを児童と共に設定したことで、「次は、虫の図鑑を作りたい。」資料7-2 や、「場面の变化を捉えられるようにしたい。」資料9-1 など、学んだことから次の学習に生かせそうな振り返りの記述が見られるようになった。これは、児童自らが主体的な学びを創ろうとしていると考えられる。つまり、「学習単元のゴール」を教師だけで決めたのではなく、児童自らが、身に付けた基礎的な知識技能を活用して取り組もうとする「学習単元のゴール」の設定をしたからこそ、学習の意欲が高まり、次の学びへと向かうことができたのだといえる。

また、振り返りの在り方については、入門期となる1年生の6月時点で

は資料 7-1 のように学習の姿を記号による自己評価で行い、学びを積み重ね、資料 7-2 のように学習で身に付けさせたい言葉を使って、文章で記述できるように段階を踏んでいった。2 年生以上の学年では、振り返りシートの中に使いたい言葉（身に付けたい力のキーワード）を表記したと資料 8-2・9-2 で、児童がそれを意識するようになり、自分にどんな力が身に付いたのか自覚するようになった。これは、学習内容の確実な定着へとつながっていると見える。学習単元の流れも一目瞭然で、児童は学習に見通しをもって、抵抗なく学習に臨むことができた。

振り返りをする際の支援として、必要な時には、振り返りの視点を提示したので、それを意識して学ぶことができるようになってきたことが振り返りシートの記述からもうかがえた。資料 7・8・9 資料 2 4

(3) 「主体的な読みにつなげるための教師のしかけ」では

① 「か・が・みっ・こ・ふ」学習過程の徹底

「か・が・みっ・こ・ふ」学習過程の徹底を通して、授業の流れや板書が統一されることによって、毎時間の流れを児童も教師も意識できるようになった。また、全学年で共通実践を積み重ねることで、どの学年においても学習の流れをつかんで授業に臨むことができた。このことで、児童が次の活動に見通しをもって取り組むことができ、児童からは、『「みっ」のときに、みんなに聞いてもらおう！』といった前向きな声が聞こえるようになってきた。

一方で、単元の内容や学習によっては、この「か・が・みっ・こ・ふ」学習にそぐわない場合もあった。このことからこの学習過程の柔軟な活用や活用方法の再確認が必要である。

② 「途中振り返り」の実施と個に応じた指導

授業の終わりだけでなく授業の途中で振り返りの活動を取り入れることで、これまでの学習を整理したり、板書やノートを再確認したり、それをもとに自分の考えをまとめたりすることができた。学習が遅れがちであった児童もこの途中振り返りにより、学習に追いつくことができた。5 年生の授業実践では、「途中振り返り」で、筆者の考えや要旨の書き方を押さえた。このことにより、学習が遅れがちな児童だけでなく、多くの児童が要旨をまとめるときのポイントを想起することができ、主体的に要旨を書く活動に取り組むことができた。この「途中振り返り」は、他の教科にもいかすことができ、次の活動がよりスムーズに展開できると見える。

また、個に応じた指導として、5 年生の授業実践では、構成や内容をつかみやすくするために、学習が遅れがちな児童のためにヒントカードを用意した。特別支援学級での授業実践においても、課題解決を図るために、問い返しをしたり、動作化をしたりと、個に応じた指導を行うことで、一人一人の理解を深めることにつながった。

これらのことから、途中の振り返りや個に応じた指導をすることは、児童が自発的に文章に向かい、自分の読みを深めることに有効だったと考える。

(4) 「児童の考えを引き出す話し合い活動の工夫」では

問い返しでは、教師主導で児童と児童の意見をつなぎ、思考を整理することができた。また、個人の意見を尋ね直すことで、より明確な根拠を児童から引き出すことができた。低学年での話し合い活動では、「〇〇さんの言いたいことってこう言うこと？」など自分たちなりに児童の意見をつなぐようとしていた。また、「そういうやり方もあるね。」「この考え方と似ているね。」など意見の相違点にも着目することができた。高学年では、意見を削ったり集約したりして自分たちでよりよい意見にまとめ、自分たちで意見の問い返しをする姿も見られるようになった。

学習形態の工夫では、個で考えた後、全体で交流したり、ペア学習では、向き合ったり椅子だけ動かしたりとその状況に応じて変化させるなどの工夫により、集中力や学習効果を高めることにもつながった。

話し合いの型を提示することで、どの児童も自信を持って自分の意見を述べることができた。また、司会役やまとめ役などの役割を輪番制にして経験を重ねたことで、話し合いにつまずく児童が少なくなった。意見が滞ったり意見がまとまらなかつたりしたときには、今までの経験から自分たちで話し合いをまとめることもできた。

話し合いに参加するために、自分の意見をもつことで、自分の立ち位置をはっきりし、自分の考えを説明したり、主張したりすることができた。自分の考えを素直に表現し、相手の考えを共感的に聞くことは思考の広がりや深まりにつながった。また、互いに問い直したり、理由を確認したりすることで、考えの相違点が明確になり、活発な意見交流となった。意見をまとめるときには、なぜその意見がよいのかについてもそれぞれが意見を述べ、根拠に説得力がある事柄が選ばれる事が多く、全体で共有するときにもその理由がとても生きていた。他者に伝えることによる思考の整理や他者からの情報による新たな気付きや発想につなげることができた。

以上のことから、学び合いの場面に話し合いを取り入れ、読みを交流させることは、児童が主体的に読みを深めることに有効であったといえる。

2 仮説2 学び合いの土台づくりについて

(1) 「基礎的・基本的学力向上の取組」では

① 漢字計算大会

基礎・基本の定着のために、漢字・計算大会の練習期間やフォローアップ期間を設けて同じ問題に何度も取り組んだことは、「繰り返し練習すると力がつき、やればできる」という自信にもつながった。学級懇談会でも、事前にこの取組について家庭へ啓発していたこともあり、取組に協力的な家庭が多かった。本番で満点をとった児童には、満点賞を渡すことで、さらに意欲の向上につながった。資料25漢字大会・計算大会の問題は、いつでも確実に正解することができるという自信をもっている児童が多く、自己肯定感を高めることにもつながり効果的であった。

しかし、漢字・計算大会で習得させたい基礎・基本の内容は、毎学期間の広範囲から厳選し、児童の実態も考慮して作成するため偏りがあり、問題数もあまり多くはない。今後は、さらに内容の充実や、そのほかの基礎・基本の定着のための取組の充実の必要性も感じられる。

② 基礎基本タイム

タブレットでの学習において下学年では、ドリルを活用するときは個人の実態に応じてドリルの基本・標準・挑戦それぞれに取り組みせるようにした。児童の学習内容の習熟度に合わせて問題のレベルが選択できて自分のペースで取り組めるので、安心して学習する児童の様子が見られた。また、確認テストを用いるときは、教師配信で一斉に行ったので学級全体の習熟度を単元テスト前に確認することができた。そこから、再度ドリルで取り組む内容を精選でき、基礎的・基本的な学力の定着につながられた。上学年では、確認テストに取り組む場合は正答率90%以下ではフォローアップシートが自動配信されるように設定した。苦手な問題に対して繰り返し取り組むことができたので、再度同じ確認テストに取り組むときは、初回よりも正答率が向上し、児童の苦手克服につながることができた。

掲示物の取組として、掲示する内容を児童の苦手とする内容に精選したり、児童がよく通る場所に設置したり、日替わりで変えて児童の興味を引くような工夫をしたりした。また、掲示をしているだけでは、児童に定着しているかが把握できないため、掲示物の内容をさらに精選し、5分程度で取り組める小テストを自作したり、授業の導入で確認したりして、児童自身が学習に使うことを目指した。資料26日替わりで掲示物が変わるため、児童は、「今日は何かなあ？」と足を止め、問題を解く様子がほぼ毎日見受けられ、楽しみながら基本を身に付けようとしている様子が見られた。

資料27

(2) 家庭学習に関するアンケート結果から

12月に実施した家庭学習に関するアンケート結果と昨年度と同アンケート結果を比較してみた。その結果以下のことがわかった。資料28「①決まった時刻に家庭学習に取り組んでいるか。」の質問に、「いつも」と回答した割合が2.8ポイント増加、「②何をするか考えて家庭学習に取り組んでいるか。(3年生から6年生まで)」の質問に、「いつも」と回答した割合が、5ポイント増加が見られた。一方、「③学習時間を決めて家庭学習に取り組んでいるか。(5年生と6年生)」では、ほぼ変化は見られず、「⑤テレビを(音楽、ゲームを含む)などを消して家庭学習に取り組んでいるか。」の質問には、「いつも」と回答した児童が、2.3ポイント減少し、「全く」の回答が、1.9ポイント増加した。

家庭学習コーナーに掲示してある自学を見て、「字がきれいだね」、「こんなふうになっているんだね」、「この子の自学すごいね」など、立ち止まって掲示を見ており、興味関心があったように感じた。また、お手本となっ

た児童にとっても「私の自学が張ってあります」と嬉しそうに話す姿が見られ、学習意欲の向上につながった。

このことから、「家庭学習の手引き」の周知と併せて家庭学習コーナーを設けたことで、児童自身が家庭学習で何をすべきなのか具体的に理解することに繋がったと考えられる。

一方で、昨年度と比較してテレビや音楽などのメディアをつけながら学習している児童が増えていることから、メディアが学習意欲に及ぼす影響を検証するとともに、メディアの使用方法についても今後、児童・保護者等に啓発していく必要がある。

(3)「学習環境づくりの取組」では

学習規律の徹底に向けた取組では、11月に行った職員へのアンケート調査によると、「ふりかえりの視点」「学用品の約束」「声のものさし」は活用できたとの回答が多かった。学級の実態に合わせて活用することで一定の効果が見られた。また、奇数月の第1週目を「学用品の約束週間」と設定し、学級通信で各家庭へ周知を行った。各学級においても、児童が教師と一緒に筆箱の中身を確認する時間をこの期間中に設け、徹底を図った。学用品を整えることで、より学習に集中できる児童が見られるようになった。

並行読書では、廊下や教室内の児童の目に触れやすい場所に、表紙が見えるように並べたり、落ち着いて読めるような環境づくりを行ったりと工夫したことで、児童が意欲的に図書に親しむことができた。また、関連する単元の学習の中で児童が目的意識をもって読書をするを通して、考えを広げたり深めたりする姿や主体的に学ぼうとする姿が見られるようになった。**資料29** 今後は、授業の中で活用することも考え、児童全員分の冊数を確保していくことが課題として挙げられる。

言葉の広場の充実では、各学年の掲示場所を設定し、学習や実態、季節にふさわしい詩や俳句、ことわざなどを精選して奇数月ごとに掲示した。11月に行ったアンケート調査では、76.6%の児童が読んでいたことが分かった。児童の感想には、「○○の詩が気に入った」「貼り替えがあったらいつも見ていた」などがあり、授業以外の場で学びに向かおうとする児童の姿が見られた。**資料30** しかし、中には掲示物に気付かずにいた児童もいたことから、さらに魅力的な作品の精選や、よりよい掲示場所の選定、教師の言葉かけを工夫していくことが必要である。

課題

- ▲「か・が・みっ・こ・ふ」の学習過程の柔軟な活用や活用方法の再確認
- ▲児童が主体的に話し合い、より考えが広がり深まる話し合い活動にするために、問い返しや個に応じた指導など、教師のスキルを高めていく
- ▲学力向上に向けての取組の充実やその他、基礎・基本の定着のための取組を充実させていく
- ▲児童の学習環境の充実のための市立図書館等、他機関との連携や保護者への啓発

V おわりに

現在の子供たちを取り巻く状況、予測困難な将来に、一人一人の児童にどのような力を育成すべきなのかを全職員で考え、共有することから、今年度の研究はスタートした。

本校においては、昨年度までの3年間の研究で「熊本の学び推進プラン」に基づいた授業づくりを目指した、教師一人一人の授業改善を行ってきた。これまでの研究を通して培ってきた経験値を新たな職員で共有し、さらに新たな取組に挑戦することで、「生き生きと学び続ける児童」の育成は一定程度の成果がでたといえる。そこには、我々教職員の中で「継続・協働・挑戦」という3つの意識の共有ができたことが大きな要因となった。3つのチームを中心に全員で議論し、実践を重ねてきた9ヶ月間であった。

本研究の成果と課題を踏まえ、今後も「生き生きと学び続ける」児童の育成を目指し、学びの主体である児童を中心におきながら、教育実践を全職員で積み重ねていきたい。

【引用・参考文献】

- (1) 文部科学省（平成29年7月）「小学校学習指導要領解説 総則編」東洋館出版社
- (2) 文部科学省（平成29年7月）「小学校学習指導要領解説 国語編」東洋館出版社
- (3) 熊本県教育委員会（令和元年12月）「熊本の学び推進プラン」
- (4) 文部科学省国立政策研究所（令和2年6月）
「主体的で対話的な深い学びを実現する授業改善の視点について」
- (5) 啓林館（令和4年4月）
「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業作り」

生き生きと学び続ける児童の育成

～主体的な読みを通して、考えを共有し、自分の思いを表現できる児童の育成～

添付資料

目次

資料 1	県学調・市学調査（令和 4 年 1 2 月実施）より
資料 2	研究構想図
資料 3	研究組織図
資料 4	下学年部の授業の取組
資料 5	上学年部の授業の取組
資料 6	特支部の授業の取組
資料 7	単元のゴールと単元全体が見通せる振り返りシート（1 年生）
資料 8	単元のゴールと単元全体が見通せる振り返りシート（3 年生）
資料 9	単元のゴールと単元全体が見通せる振り返りシート（5 年生）
資料 1 0	下学年用振り返りの視点
資料 1 1	上学年用振り返りの視点
資料 1 2	「か・が・みっ・こ・ふ」の学習過程
資料 1 3	学びを整理する 鏡小版「途中振り返り」
資料 1 4	話合いの型
資料 1 5	漢字・計算大会問題
資料 1 6	タブレット活用の時間の様子
資料 1 7	「〇年生の基本」コーナー
資料 1 8	家庭学習の手引きと学級通信での家庭への啓発
資料 1 9	自主学習ノートの掲示
資料 2 0	教室掲示用シートの抜粋
資料 2 1	並行読書のための環境づくり
資料 2 2	言葉の広場の掲示物
資料 2 3	児童アンケート 肯定的な回答の変容
資料 2 4	「振り返りの視点」を活用した振り返りシートの記述
資料 2 5	満点賞の賞状
資料 2 6	掲示から作成した小テスト
資料 2 7	掲示コーナーを見ている児童
資料 2 8	家庭学習に関するアンケート結果
資料 2 9	単元の学習に関連する図書を読んでいる児童
資料 3 0	言葉の広場の掲示物の詩を楽しむ児童と付箋に書かれた児童の感想

資料 1

県学調・市学調（令和4年12月実施）より

国語

学年	全国平均正答率を上回った学年（○）
2年	
3年	
4年	○
5年	○
6年	

課題

【問題の内容】

- ・物語の内容を読み取る
- ・話し合いの内容を聞き取る
- ・文章を書く

【観点別】

- ・主体的に学習に取り組む態度（2・3年）

【領域別】

- ・読むこと（2・3・4・6年）
- ・情報の扱いに関する項目（2・3・5・6年）

算数

学年	全国平均正答率を上回った学年（○）
2年	○
3年	
4年	
5年	
6年	○

課題

【問題の内容】

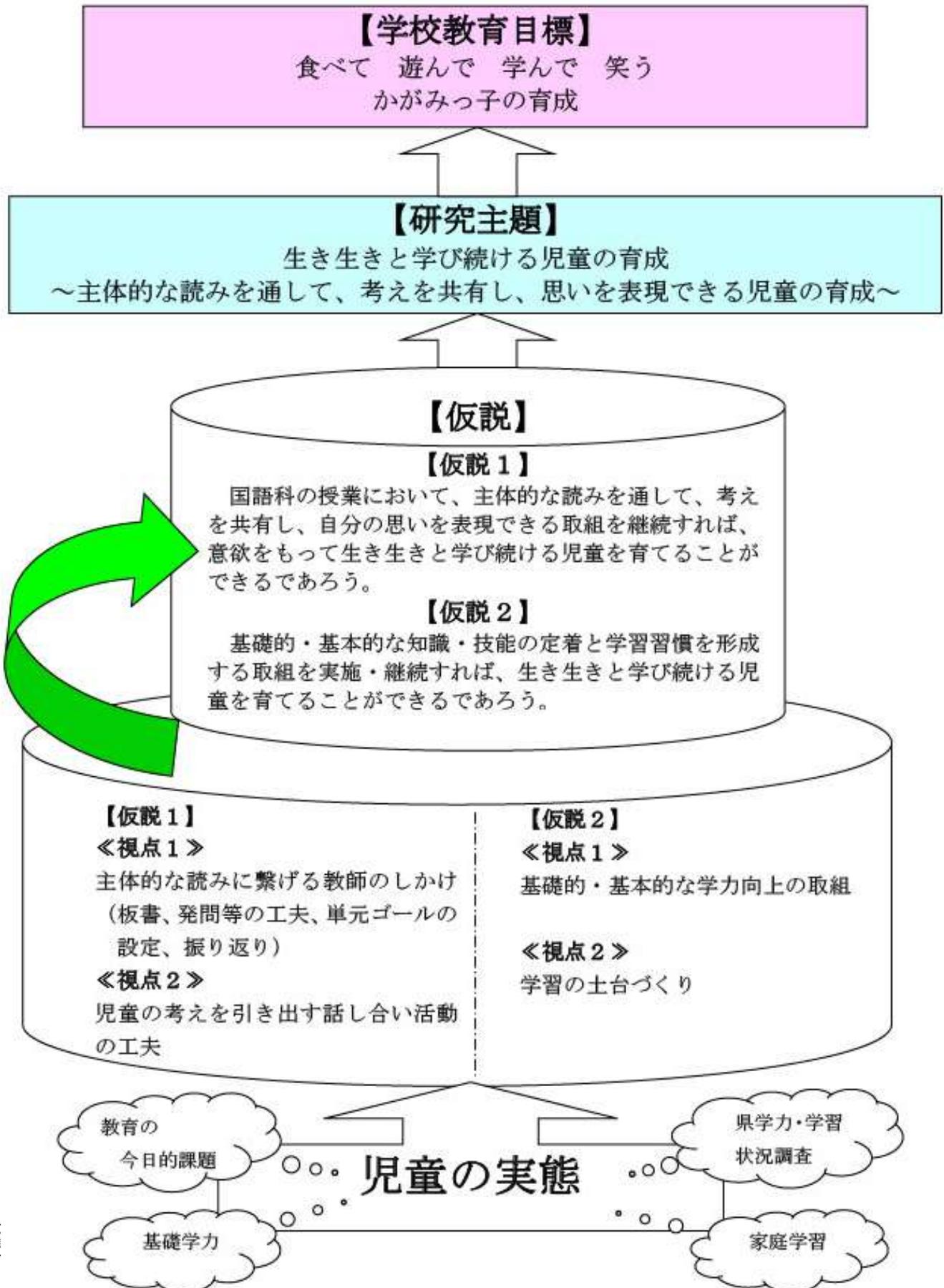
- ・小数や分数を含む計算問題

【観点別】

- ・思考・判断・表現

【領域別】

- ・数と計算（3・4・5年）
- ・データの活用（4・5年）



- 研究推進委員会**
- ・校長
 - ・教頭
 - ・教務
 - ・研究主任
 - ・学年部部长
 - ・研究部部长

校長

教頭

全体会

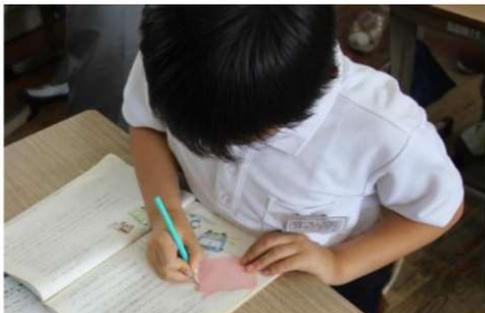
学年部会

研究部会

		研 究 部 会		
		授業づくりチーム	基礎学力チーム	環境づくりチーム
学 年 部 会	低	岩本め 廣瀬	梅田 本郷	黒田 中田
	中	園田ま 倉門	田中 深水 山本め	阪井 福村
	高	岩本ひ 上村	橋本 林田 宮本	江上 山本な

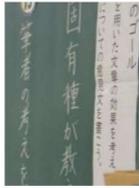
資料4 下学年部の授業の取組

- 1 授業の実際 令和5年6月20日実施
 (1) 単元名 まいごのかぎ(光村図書 3年上)
 (2) 単元の目標
 ① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知識及び技能](1)オ
 ② 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。[思考力・判断力・表現力等]C(1)エ
 ③ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。[学びに向かう力、人間性等]
 (3) 本時の学習(4/6)
 ① 目標
 登場人物の心情と出来事や行動、叙述、場面の移り変わりと結びつけて考え、「りいこ」の心情の変化を捉えることができる。
 ② 展開

過程時間	学習活動	教師のかかわり(○発問●指導・支援) 児童の反応◆・評価基準	仮説1の視点に関する考察
① 5分	1 本時の見通しをもつ。 ① 前時の学習を振り返る。 ② 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【か】さいしょとさいごでは、「りいこ」の気持ちがかかった理由を考えよう。 </div>	●前時までの学習計画や板書等を掲示することで、既習事項を振り返させた。	【指導過程の工夫】 ○どのような学習をすべきか、学習計画をもとに振り返らせた。(単元全体、本時のゴールの確認等) ○前時までの掲示物や教科書を参考にした。(前時及び既習事項の確認等) 
② 15分	2 場面の移り変わりとおすびつけて、「りいこ」の気持ちの変化を捉える。 	●「りいこ」の気持ちがとてもかわったのは、どの場面ですか。 ◆場面⑤です。 ◆④では、ふしぎな出来事の後に悲しくなっているからです。 ◆場面④では、「よけいなことをしなければよかった」と考えているのが「りいこ」の言葉から分かります。 ●「場面⑤⑥」の中でりいこの気持ちが一番かわったところを見つけ、その理由を考えましょう。 ◆最初は、うつむいています。しょんぼりしています。 ◆また、よけいなことをしちゃったと思っています。 ◆最後は、うれしくなって、大きく手をふり返しました。	【教師のしかけ】 ○既習事項を掲示し、考えの参考にさせた。(自力解決の手立て等) ○前時までに引いたサイドラインから、一番気持ちがかかったところを考えさせた。 

<p>⑦ 15分</p>	<p>3 りいこの気持ちの変化について、話し合う。</p> <p>① グループで考える。</p>  <p>② 全体で考える。</p>	<p>◆「なんだか、とても楽しそう。」</p> <p>◆「りいこ」ははっと何に気がついたところからわかるよ。</p> <p>◆「もしかしたら・・・。」のところで、考え方が変わったから。</p>	<p>【教師のしかけ】</p> <p>○気持ちの色分け・太さを意識させ、視覚的に判断しやすくさせた。</p>  <p>○気持ちの根拠となる叙述を探す場合には、登場人物のしたこと・行動、様子に着目するとよいことも確認した。</p> <p>○叙述を短冊にまとめ、心情の変化を曲線で描き心情の変化を視覚的に捉えやすくした。</p> <p>○「りいこ」の心情を視覚化することで、自分と友達の意見を比較しやすくした。</p> <p>○りいこの気持ちを「+」「-」かの2択で考えさせ、「-」から「+」に変わっているところに着目させた。</p>  <p>【話し合い活動の工夫】</p> <p>○自分の考えを班の中で確実に発言したり、その返しをしたりすることで、自分と友達の考えの違いをより意識させた。(学び合いの時間の手立て等)</p> <p>○教師による問い返し「なぜ、『うさぎ』も最後に登場したのか」を考えさせ、みんなの役に立つことができたことに気付かせた。</p>
<p>⑧ 10分</p>	<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>◆最初は、自分をせめていたけど、かわった。</p> <p>◆ものの気持ちがわかったから、みんなの気持ちがわかった。だから、自分は悪くないと気付いた。</p>	
<p>⑨</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、次時の確認をする。</p>	<p>●学習の振り返りをしよう。</p> <p>◆「りいこ」はいいことをしたから、すきなことをしていいよと思った。</p> <p>◆場所は同じだけど、わけがちがうことがわかった。</p>	<p>【指導過程の工夫】</p> <p>○振り返りの視点カードを提示し、感想などを取り上げ、学びや成長を感じ取れるようにした。(本時の振り返りの手立て等)</p>
<p>2 成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>○ 学習計画を児童とともに作成し、本時の課題を共有することで、児童が単元全体を見通して学ぶことができた。学習過程の「こ」では、振り返りの視点カードを提示し、児童が選択して学習シートに書き込むことで、次の学びへの学習意欲につながった。</p> <p>○ 話し合いの型(資料14)を提示し、多くの人に発言の機会を与え、児童全員が自分の考えを班で述べることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○ グループで考えるときには、主に児童からの問い返しがあるが、全体で考えるときには、教師主導での学びが中心になってしまった。</p>			

資料5 上 学年部の授業の取組

<p>1 授業の実際 令和5年10月25日実施 (1) 単元名 「固有種が教えてくれること」(光村図書5年) (2) 単元の目標 ①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ ②引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)エ ③目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1) (3) 本時の学習(5/13) ①目標 文章と資料を結び付けたりその効果を考えたりして、論の進め方を捉え、要旨をまとめることができる。 ②展開</p>			
過程時間	学習活動	教師のかかわり(○発問●指導・支援) 児童の反応◆ ・評価基準	仮説1の視点に関する考察
① 5分	1 これまでの学習を振り返る。 2 本時の学習のめあてをつかむ。	● 前回までのまとめを掲示することで、学習を振り返らせる。 ◆ 文章と資料を結び付けたりその効果を考えたりしました。 ● 本時のめあてを確認させる。	【指導過程の工夫】 ○ 単元のゴールを掲示することで、どのような力をつけるか意識させた。  【教師のしかけ】 ○ 本時の学習の流れをつかませた。
② 20分	3 筆者の考えを中心に要旨をまとめる。 ① 筆者の考えを確認する。 ② 要旨の書き方を復習する。 ③ 要旨をまとめる。 ④ 途中振り返りを行う。再度要旨をまとめる。	● 教科書の筆者の考えが書いてある場所を確認することで、筆者の考えを捉える。 ● 筆者の考えや題名(固有種が教えてくれること)に着目させ、150字程度で要旨をまとめる。	【教師のしかけ】 ○ 10分ほど経過したら、要旨のまとめ方の状況の確認を行い、思考を整理する。必要な情報が抜けていないか、また不要なものはないか確認させた。 
③ 15分	4 交流する。 ① グループで交流する。 ② 全体で交流する。	◆ ○○さんの表現がわかりやすかったです。 ・ (思考・判断・表現) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必	【話し合い活動の工夫】 ○ 友達や自分の要旨を比較し、付箋などを書いて交流することで、友達との相違点や表現方法のよさに気付かせた。

		<p>要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（方法：ノート・発言）</p>	<p>○友達の考えを問い直したりすることで、互いの考えの相違点に気付かせた。</p> 
○ 5分	5 要旨の例を示し、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 要旨の例を確認することで、まとめ方の参考にさせる。 ◆ 構成を意識してまとめるとわかりやすくなります。 	
⊗	6 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ○○さんの感じ方が自分とちがって、なるほどと思いました。 ◆ 要旨の書き方が理解できました。 	<p>【指導過程の工夫】</p> <p>○振り返りの視点カードを提示し、感想などを取り上げ、学びや成長を感じ取れるようにした。</p> 
<p>2 成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>「か・が・みっ・こ・ふ」の学習過程が徹底したことで、児童が見通しをもって学習に臨むことができた。また、「途中振り返り」を行うことで、学習が困難な児童も学びに追いつくことができ、安心して取り組んでいた。</p> <p>【課題】</p> <p>筆者の考えや要旨の確認に時間がかかってしまい、交流の時間が短くなった。また、交流の視点が曖昧だったため、児童が何について話せばよいか迷っていた。</p>			

資料 6 特支部の授業の取組

<p>1 授業の実際 令和5年11月7日実施</p> <p>(1) 単元名 「じどう車くらべ」(光村図書 1年下)</p> <p>(2) 単元の目標 ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>(3) 本時の学習(5/12)</p> <p>① 目標 説明文を読み、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。</p> <p>② 展開</p>			
過程時間	学習活動	教師のかかわり(○発問●指導・支援) 児童の反応◆・評価基準	仮説1の視点に関する考察
① 7分	<p>1 既習漢字を振り返る。</p> <p>2 これまでの学習を振り返る。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>●スケジュールの提示やタイムタイマーを使用することで見通しをもたせた。</p>	<p>【指導過程の工夫】</p> <p>○「じどう車ずかんをつくろう」という単元のゴールを掲示し、学習意欲を高めさせた。</p> <p>○既習事項を振り返り、「しごと」と「つくり」をまとめることを確認した。</p>
<p>【か】クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。</p>			
② 15分	<p>4 クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>(1) デジタル教科書で読み上げを聞く。</p> <p>(2) 一斉音読をする。</p> <p>(3) 「しごと」と「つくり」が書いてあるところにサイドラインを引く。</p>	<p>○「しごと」と「つくり」が書いてあるところにサイドラインを引きましょう。</p> <p>●デジタル教科書の読み上げ機能とハイライト機能を活用し、内容の理解を助けた。</p> <p>◆おもいものをつり上げる仕事です。</p> <p>◆「つくり」はじょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。</p> <p>◆車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。</p>	<p>【教師のしかけ】</p> <p>○「しごと」が書かれているところを赤線、「つくり」が書かれているところに青線を引かせ、問いと対照させやすくした。</p>
			
③ 15分	<p>5 途中振り返りをしながら、プリントにまとめる。</p>	<p>○なぜ、そのつくりになっているの？</p> <p>●「つり上げる」を動作化させ、具体的にイメージさせた。</p>	<p>【教師のしかけ】</p> <p>○「しごと」「つくり」「そのために」の視点で、途中ふりかえりを行いながら、なぜそのつくりになったのかを問い返したり、どこの部分かを挿絵で確認したり、言葉を動作化したりして、読みを深めさせた。</p>
<p>(評価基準) 説明を読み、その「しごと」と「つくり」をワークシートに書いている。</p>			
④ 8分	<p>6 なぜ「つくり」が異なるのかを考える。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>●プリントの並べ方を工夫し、「しごと」と「つくり」を比べやすくした。</p> <p>●振り返りの視点を提示し、学びや成長を感じ取られるようにした。</p>	
<p>成果と課題</p> <p>【成果】○単元のゴールを具体的に提示し、児童全員に共有させたことで、学習意欲を高めさせることができた。</p> <p>○「なぜ、そのつくりになっているのか？」途中振り返りと、問い返しをしながら、理解を深めさせることができた。</p> <p>【課題】○振り返りの視点が同じになることが多い。指導者が視点を指定して書かせるなどすることで、いろいろな視点で書けるようにさせたい。</p>			

資料 7-1 単元のゴールと単元の全体が見通せる振り返りシート (1年生)

入門期の振り返りシート

がくしゅうをおわりのかんそう ぶんをよむのがたのしかった	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	くちばし まいにちの ちえつく		
	6	15	6	14	6	13	6	12	6	8
	がくしゅうの まとめを しよう。	いちばん おどろいた それをえらんだわけを はなそう。	もんだいと こたえを べあで おんどくしよう。	みつめの くちばしを くわしく よもう。	ふたつめの くちばしを くわしく よもう。	ひとつめの くちばしを くわしくよもう。	とりの くちばしの ぶんしょうを よもう。	がくしゅうの めあて		

記号によって自己評価できるようにした。

資料 7-2

学習内容をおわって... 車のなまえや 車のなまえを つくろう。	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆学しゅうのゴール じどう車つくろつ
	22	14	14	13	11	10	8	7	7	2	1	10	36
	学習のまとめをする。	ひょうしをつくろう。	ずかんをつくろう。	ずかんをつくろう。	グループではなしあつて さめる。	じどう車についてかいてある ほんやずかんをよむ。	じどう車についてかいてある ほんやずかんをよむ。	三つめのじどう車について まとめろ。	二つめのじどう車について まとめろ。	一つめのじどう車について まとめろ。	かかれてあることだいたい しる。	すきな「じどう車」についてかいたり はつびようしたりする。	まよりの学しゅう

学習内容に対する振り返りを記述できるようにした。

単元のゴールを書き込めるようにした。

資料 9 - 1

単元のゴールと単元の全体が見通せる振り返りシート (5年生)

学習全体を通して学んだこと・次に生かせそうなこと
「たずねびと」を勉強して、原爆のおそろしさが分かりました。そして次の学習では場面の変化をとらえられるようにしたいです。

⑥	⑤	④	③	②	①
9/29	9/28	9/27	9/26	9/25	
学んだことを まとめる。自分の考えや 感じたことを伝え合う まとめたことを 伝え合う。	八場面について考える。	使われている言葉に着目しながら心情の変化をとらえる。	綾の心情の変化をとらえる。(全体)	学習活動 ○全文を通して、今思っていることや考えたことや 「たずねびと」について ○単元のゴールを再考する。 ○単元のゴールを再考する。 ○単元のゴールを再考する。	振り返り ①これからは物語文の初発の感 を深くときには心情や場面などに 書きたいです。

単元のゴール
心情や場面の変化をとらえ
感じたことを伝え合う。

たずねびと 振り返りシート
五年二組三十四番 ()

振り返りで使いたい言葉を表記して、児童が単元で身に付けたい力を意識した振り返りを記述できるようにした。

資料 9 - 2

学習全体を通して学んだこと・次に生かせそうなこと
これからは、環境の意見文を作ったことで、自分でできることや、今の環境に
ついてのことがあらためて分かりました。そして、学んだことをいかしたいです。

⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②
9/29	9/28	9/27	9/26	9/25	9/24	9/23	9/22	9/21	9/20	9/19	9/18
環境の意見文の構成を 考える。											
環境の意見文の構成を 考える。											

固有種が教えてくれること 振り返りシート
五年二組三十四番 ()

振り返り
①私は単元のゴールを決めてこれから何を
するのかが理解しました。

資料 1 0 下学年用振り返りの視点

ふいかえりの「はひふへほ」

は はじめてしたことは、
~~~~です。

**ひ** びっくりしたことは、  
~~~~です。

ふ ふしぎなことは、
~~~~です。

**へ** ペアの〇〇さんの  
おかげで  
~~~~ができました。

ほ ほうほうがわかったので、
~~~を試みたいです。

聞き慣れた言葉を頭文字にして、スムーズに振り返りを書くことができるようにした。

資料 1 1 上学年用振り返りの視点

振り返りの視点をもとに授業でどのような力がついたか言語化しやすくした。

**ふ** …深まったと思うこと・不思議に思ったこと

**り** …理解できた(分かった)こと・気づいたこと

**か** …考えるときに意識したこと、  
感じたこと・感想

**え** …「えっ」と驚いたこと・  
絵や図を使って分かったこと

**り** …利用できそうなこと(次の学習や生活で)

資料 1 2 「か・が・みっ・こ・ふ」の学習過程

- 1 「か」(課題をつかむ過程)  
本時の学習課題をつかむ段階では

「か」  
課題をつかむ過程  
本時の学習課題をつかむ。

課題をつかみ



**かがみっ子の学び方**

- か** かだいをつかみ
- が** がんばって考えて
- みっ** みんなでよく聞きつたえ合いをして
- こ** 言葉でまとめよう

- 2 「が」(考える過程)  
自分で課題に挑戦する段階では

「が」  
課題をつかむ過程  
自分で課題に挑戦する。

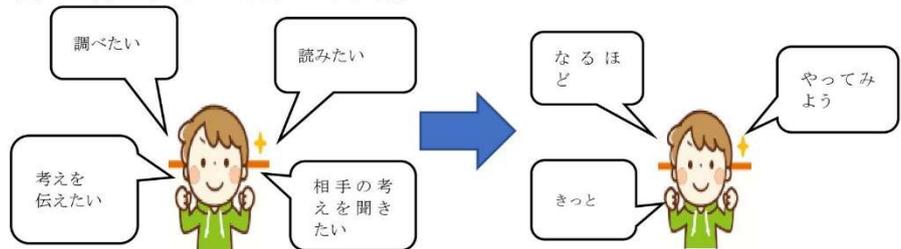
がんばって考え



- 3 「みっ」(深める過程)  
互いの考えを分かりやすく伝え合い、学びを深める段階では

「みっ」  
深める過程  
互いの考えを分かりやすく伝え合い  
学びを深める。

みんなでよく聞き伝え合い



- 4 「こ」(まとめる過程)  
本時の学習をまとめる段階では

「こ」  
まとめる過程  
本時の学習をまとめる。

言葉でまとめる



- 5 「ふ」(振り返る過程)  
本時を振り返り、次の学習につなぐ段階では

「ふ」  
振り返る過程  
本時の学習を振り返る。

ふり返り次につなげる



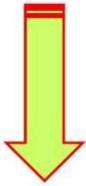
## 学びを整理する 鏡小版「途中振り返り」

学習過程

問題提示の前に、  
「きのうやったことをもう一度確認しよう。」  
と既習内容を振り返る。

か

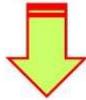
課題をつかむ過程  
本時の学習課題をつかむ



自力解決に入る前に、問題やめあてを確認し、  
「ここまで尋ねたいことはないかな。」  
と振り返る。

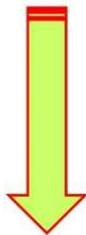
が

考える過程  
自分で課題に挑戦する



みつ

深める過程  
互いの考えを分かりやすく伝え合い、  
学びを深める



本時をまとめる前に、  
「ここまでを一度整理するよ。」  
と学び合いの様子を振り返る。

こう

まとめる過程  
本時の学習をまとめる

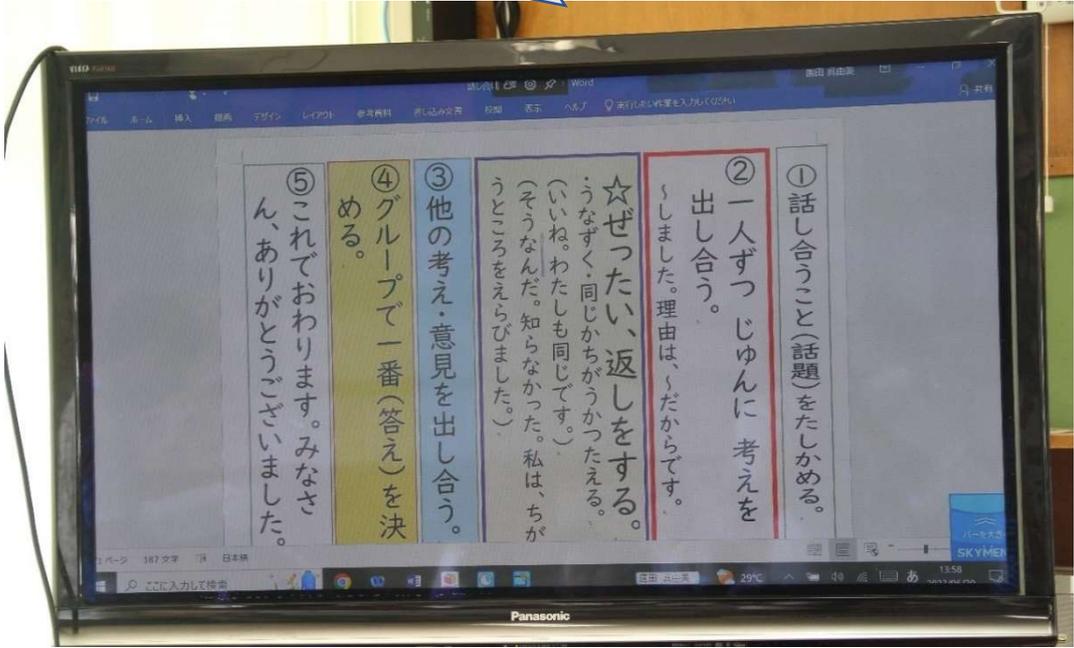


ふ

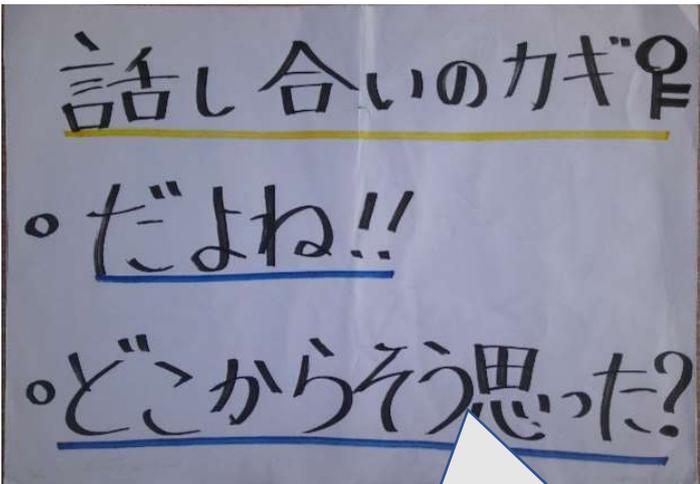
振り返る過程  
本時を振り返り、次の学習につなぐ

資料 1 4 話し合いの型

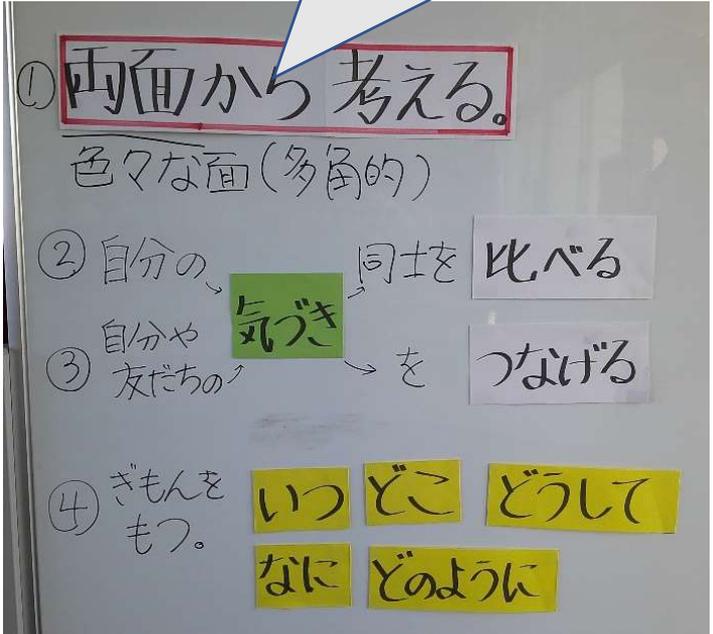
話し合いを成立させるための「話し合いの型」(3年生)



話し合いを成立させるための4つの視点を児童と確認し、意識して話し合いができるようにした。(5年生)



「話し合いのつなぎ言葉」(5年生)





資料 1 7

「〇年生の基本」コーナー

国語科の内容を中心に各学年の実態に応じて掲示した。



資料 1 8

家庭学習の手引きと学級通信での家庭への啓発

家庭学習の手引き

高学年用

やくそく

- ◇ 勉強を始める時刻を決めましょう。  
平日 ( 時 分から ) 休日 ( 時 分から )
- ◇ 勉強する場所を決めましょう。 ( )
- ◇ テレビは消します。
- ◇ 時間のめやすは、5年生 60分以上 6年生 70分以上
- ◇ 勉強の内容は、宿題+音読+自主学習
- 宿題** 必ずします。
- 音読** 正しく、はっきりと声に出して、スラスラと読めるようにします。



こんな勉強をしよう (自主学習)

- 国語**
- 漢字 → 筆順・とめ・はね・はらいに気をつけます。
  - 漢字スキルの練習をする。
  - 漢字テストを自分で作る。
  - 意味調べ → 四字熟語やことわざ、意味がわからない言葉を辞典で調べ、ノートに書く。
  - 複写 → ノートに時間を決めて書く。または、ページを決めて時間を計る。
  - 読書 → 学年にふさわしい本を読む。教科書で学習した作者の他の作品を読む。(60冊以上を目指す)
- 算数**
- 計算 → 正しい計算の仕方が身につくように、くり返し練習する。
  - 計算ドリルをノートに書いて、まちがえた問題をもう一度やり直す。
  - 計算問題を自分で文章問題を作る。
- 社会・理科**
- 学習したことまとめ → 学習したことを音読したりノートにまとめたりする。
  - 資料を読む → グラフや表から分かることや考えたことを書く。
  - 調べ学習 → 興味のあることを本やインターネットで調べる。

終わったら

- ◇ 時間割をそろえましょう。
- ◇ 使った物、机の上や周りは、き

児童への配付と併せて保護者用の「鏡小家庭学習の進め方」を各家庭に配付し、学級通信でも啓発を行った。

資料 1 9 自主学習ノートの掲示



児童がよく通る場所に各学年のモデルとなるノートを掲示した。

資料 2 0 教室掲示用シートの抜粋

**学用品のやくそく**

<ふてばこの中>

- ① えんぴつ4~5本
- ② 消しゴム (シンプルなもの)
- ③ 赤えんぴつ1本 (または赤ペン)
- ④ ミニじょうぎ
- ⑤ ネームペン

\*マーカー・フェルトペン・青ペンなど 学年で必要なものは入れておきます。

\*シャープペンシルは持ってきません。

\*ランドセルやバッグ・鞄には かざりは つけません。

**すわり方のやくそく**

**グー・ペタ・ピン・サッ**

①グー

おなかとせなかにグーひとつ

③ピン

せなかはピン

②ペタ

足はベッタ

④サッ

手はサッとひざの上

**声の ものさし**

全校で統一した6つの掲示物を全教室に掲示した。

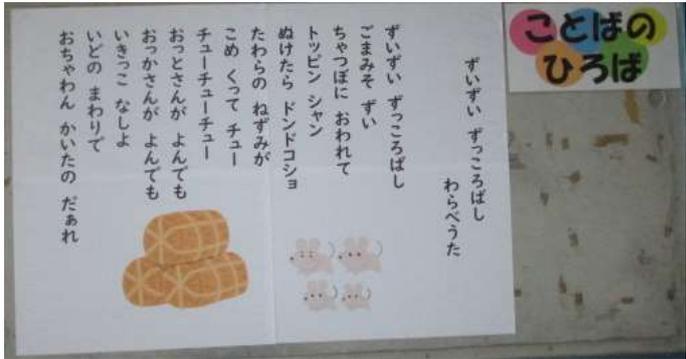
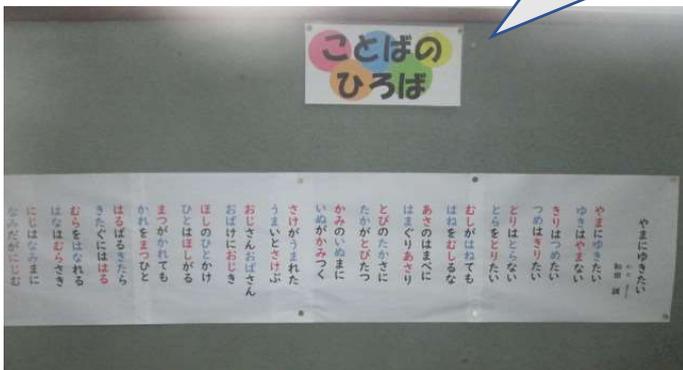
資料 2 1 並行読書のための環境づくり



鏡図書館と連携し、国語科の学習教材と関連した本を精選して設置した。

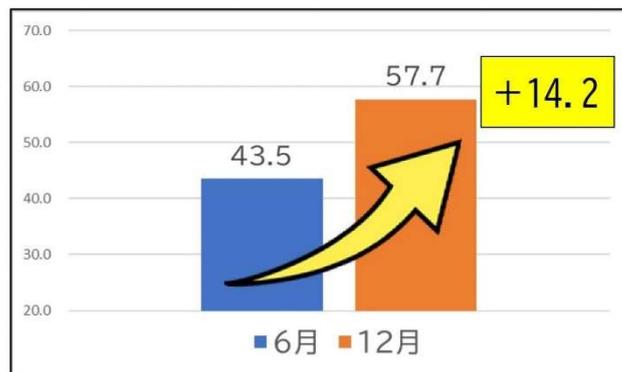
資料 2 2 言葉の広場の掲示物

児童が読みたくなるようなイラストや書体、色なども工夫した。

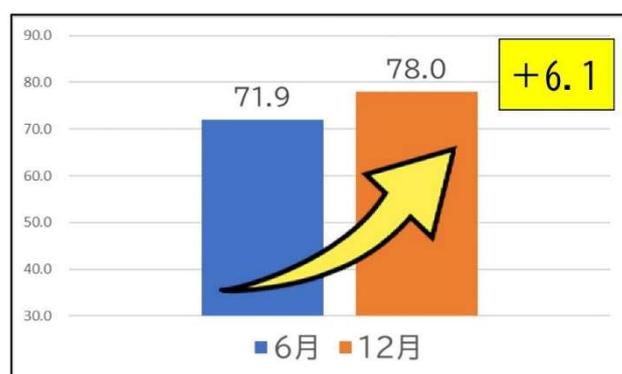


資料 2 3 児童アンケート 肯定的な回答の変容

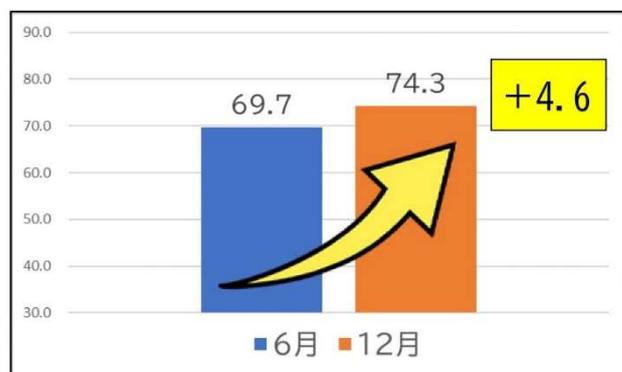
質問 1 (肯定的な回答をした児童の割合)  
国語の授業で不思議だな、どうしてだろう、  
と思ったことを調べていますか。



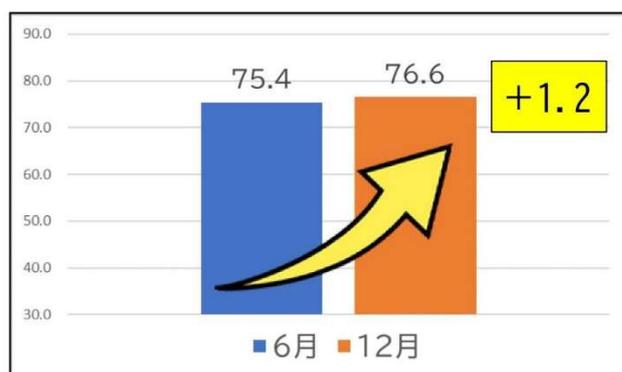
質問 2 (肯定的な回答をした児童の割合)  
国語の授業では、課題の解決にむけて、自分で  
考え、自分から取り組んでいると思いますか。



質問 3 (肯定的な回答をした児童の割合)  
国語の授業では、クラス全体やグループ、友だち  
同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的  
に発言していますか。



質問 4 (肯定的な回答をした児童の割合)  
国語で学習した内容について分かったことやよく  
分からなかったことを見直して、次の学習に取り  
組んでいると思いますか。



資料 2 4 「振り返りの視点」を活用した振り返りシート記述

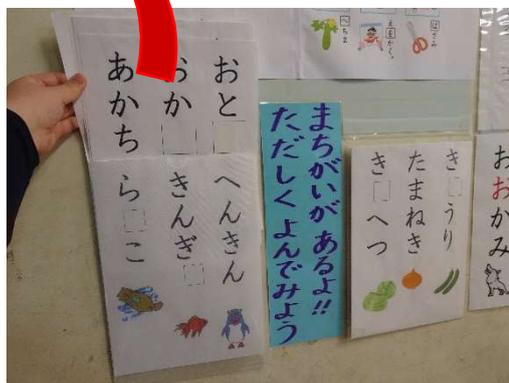
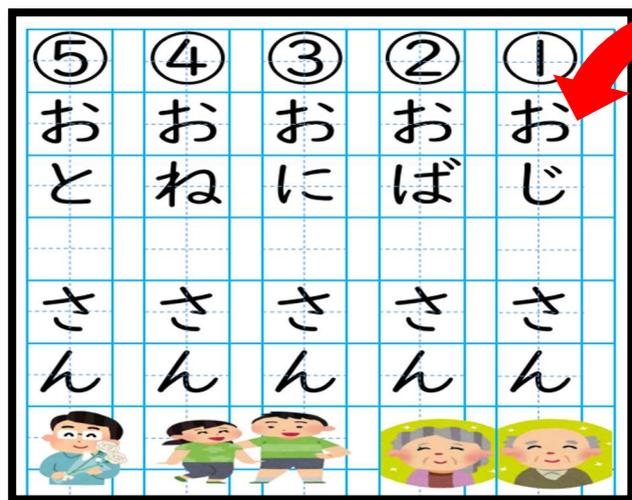
| 1 年生                                                                                                                                           | 3 年生                                                                                                                                                                                                                                                           | 5 年生                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ふりかえり<br/>はじめてし、たことはじよ<br/>つよう車てなんのじどう<br/>車なのかわらなかつた<br/>みんなやペアでするのは<br/>そうだんしてでてるから<br/>ちよとかんたんだった。き<br/>うかしのずかんはなまえ<br/>としごととつりをかけた。</p> | <p>ふりかえり<br/>かんばって、表においしくするくふつとそのくまにそた<br/>食口をまいたら、そのざいりょうのことをもと<br/>知れたし、分かりやすく見れるようになりまし<br/>表にまとめ、整理することによって調べたいこと<br/>が見えてきたなと思いました。<br/>④(木)の〇〇に気づくことができた。(へらめたい)</p>  | <p>①環境の意見文のテーマやどんな文章を<br/>作るのかやどんなことを調べるのか考えました。<br/>②私は友達と文章を見直したりして、自<br/>分の意見を深めながら作りまし<br/>③私は、みんなで文章のよいところを見つけて、そ<br/>のことや意見文で学んだことをこれから、利用<br/>していきたいです。</p> |

資料 2 5 満点賞の賞状



満点を取った児童には、賞状を渡した。  
※画像は高学年用の賞状

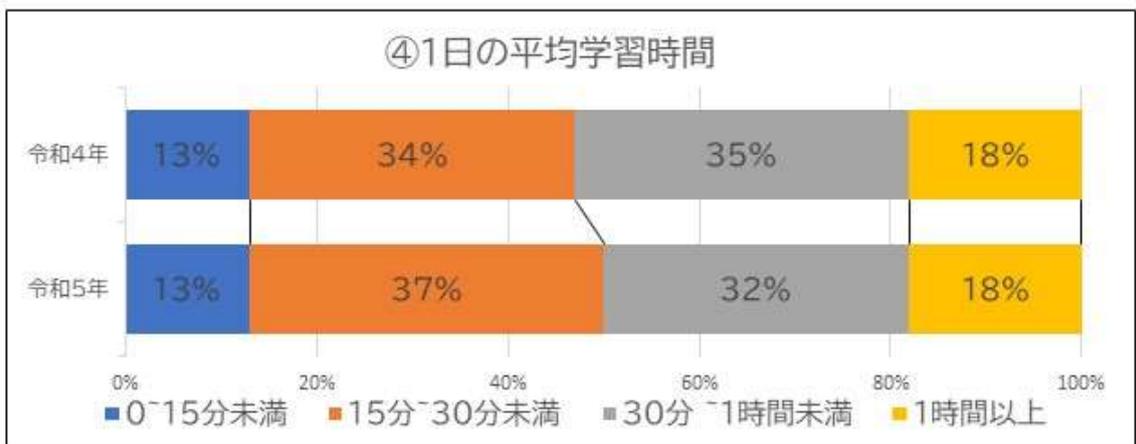
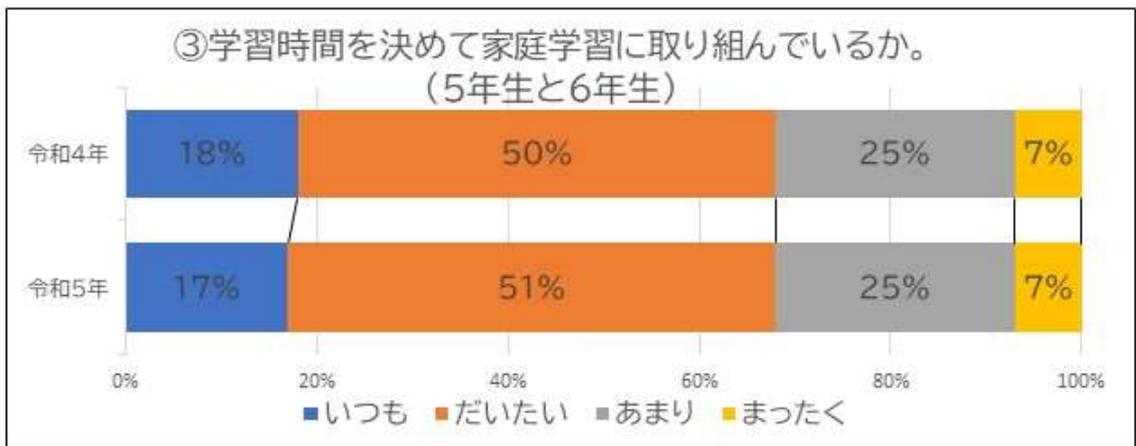
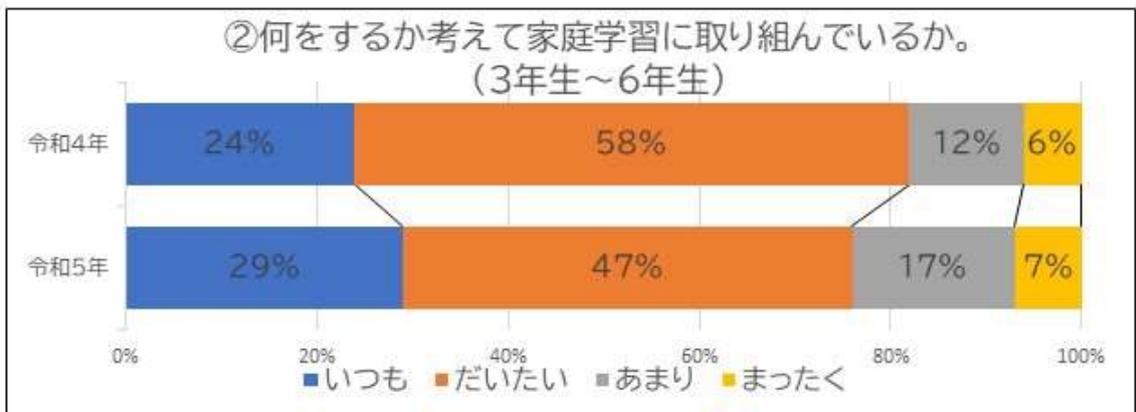
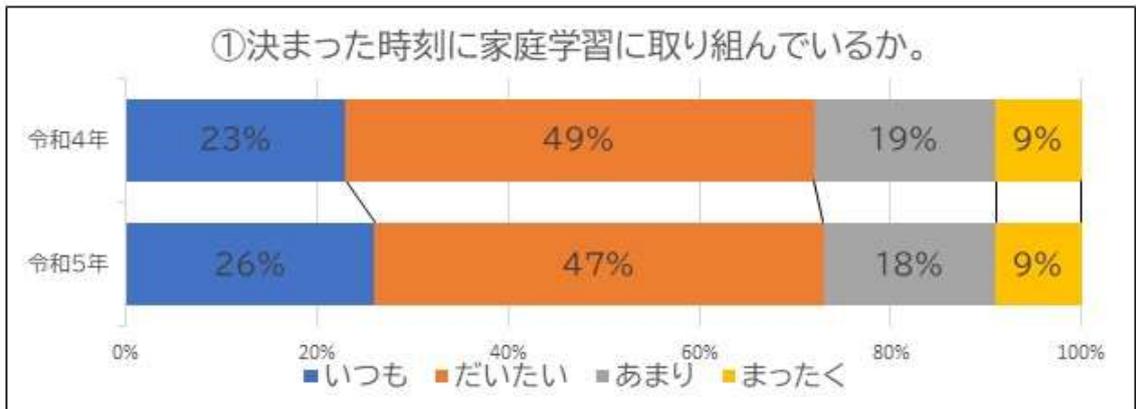
資料 2 6 掲示から作成した小テスト



資料 2 7 掲示コーナーを見ている児童



資料 2 8 家庭学習に関するアンケート結果

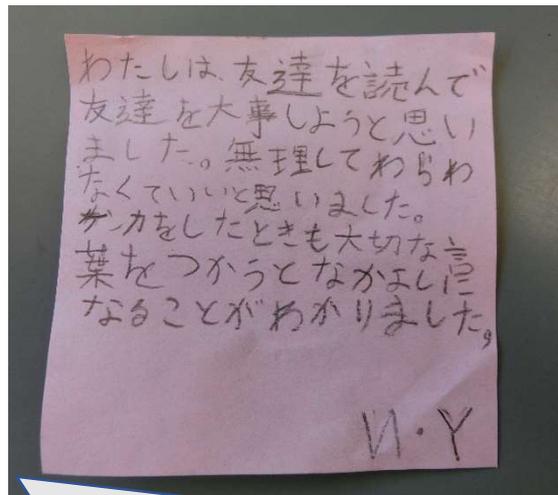


資料 2 9 単元の学習に関連する図書を読んでいる児童



児童の読みやすさを考え、学年に応じて視線の高さに並べたり廊下にベンチや椅子を置いたりした。

資料 3 0 言葉の広場の掲示物の詩を読む児童と付箋に書かれた児童の感想



掲示物の近くに付箋紙を置いて、個人の感想を書けるようにした。